

## 男女共同参画センターはあもにい 第2回運営審議会

平成24年12月13日(木)

1・日時 平成24年12月13日(木) 午前10時～12時

2・場所 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室

3・出席者 運営審議員8名

清重尚弘委員(会長)、八幡彩子委員(副会長)、伊藤一敏委員(議事録署名者)、  
坂口京子委員(議事録署名者)、飯村直亮委員、中山敏子委員、濱本伸司委員、  
原幸代子委員

オブザーバー 熊本市男女共生推進室 川上秀人主査

事務局 代表企業A 尾池千佳子(九州総合サービス株式会社代表取締役)

上村浩二(九州総合サービス株式会社専務取締役)

構成企業B 小山雄治(熊本産業文化振興株式会社常務取締役)

構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミューズプランニング代表取締役)

・兼はあもにい館長)

加島裕士(はあもにい副館長)

総務管理係：山田晋、吉田寛、吉田稀世、反後文代

### 4・会次第及び議事内容

- (1) 開会
- (2) 開会挨拶(館長：藤井宥貴子)
- (3) 共同企業体代表挨拶(九州総合サービス株式会社代表取締役 尾池千佳子)
- (4) 出席委員紹介・議事録署名者指名
- (5) 審議

議題1 平成24年度実施事業報告

議題2 平成25年度事業計画について

### 5・議事録

- (1) 開会 10時より
- (2) 開会挨拶(館長：藤井宥貴子)

藤井：おはようございます。本日はお集まりいただき、ありがとうございます。  
私どもが指定管理となって8か月が経ちました。この8か月、試行錯誤してまいりました。そんな中、先月17・18日には当センターで最も大きな行事・はあもにいフェスタが開催され、無事に終了することができました。  
男女共生推進室をはじめ関係各所、特に女性リーダー協議会をはじめとする女性団体の皆様方には大変お世話になりました。初めてのフェスタということで、何の経験も知識もない中で取り組んだのですが、関係団体と準備段階

からともに力を合わせて取り組むことができ、反省は多くありますが、多くを学び得る貴重な機会になったとっております。

初日は生憎天候が悪かったのですが、午後にはもちなおしましたし、2日目は晴天にめぐまれて、両日合わせて1900名を超える市民のみなさまにご来場いただき、お楽しみいただけたと思います。

また今回、団体のみなさまからアイデアをいただいたクイズラリーを実施いたしました。来場者に館内をくまなく回っていただきながら、男女共同参画についての問題に答えていただくという取り組みでしたが、小学生のお子さんが、お母さんに「DVってなあに？」と尋ねていて、お母さんがその質問に悩みながら一生懸命に答えていらしゃった姿や、問題を見ながら「家事の手伝いはお父さんがする、お母さんがする」など議論をする家族の姿も見受けられました。男女共同参画に関する啓発というのは、こういう身近なところから取り組んでいくものなのだと再確認いたしました。

また、これまでに、市の指定事業そして私どもの自主事業合わせて約55講座を実施してまいりましたが、受講生からはおおむね満足した、良かったという感想をいただいております。併せて、今回はじめて当センターを利用したという方も多くみうけられ、これは私どもが当初から「身近な会館として親しんでいただく」という目的のもと、市政だよりやホームページ、ラジオ番組などの広報活動が少しずつ実を結んできた結果かなと感じているところであります。

まだまだ十分ではないのですが、特に、男女共同参画に関する基本的な講座については様々なところからご意見をいただきました。これは私どもスタッフが、その分野についての理解が不十分だったり、取り組みに関してスタートが遅れたということもありますが、この点に関しては次年度の事業に十分反映していきたいと思っております。

本日は、事業の報告と次年度の計画について皆様にご審議をお願いしたいと準備をしております。特に、次年度の事業については、大枠を計画しております。詳細については、ご意見を賜ったあと決定していきたいと思っておりますので忌憚のないところでご意見をいただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

### (3) 共同企業体代表挨拶（九州総合サービス代表取締役 尾池千佳子）

**尾池：**企業体の代表を務めさせていただいております。尾池でございます。本日は、早朝より、大変お寒い中に、皆様方にお集まりいただきありがとうございます。

私ども 4月より地元企業3社で共同体を組みまして、指定管理者として管理・運営させていただいております。8か月が経過しようとしておりますが、その間、藤井館長を中心にスタッフ一同精一杯とりくませていただいているつもりではありますが、まだまだ至らない点があるかと思っております。本日は皆様方のたくさんのご意見をいただきまして、改善すべき点は早急に改善しまして、市民のみなさまに喜んでいただける施設づくりをめざして頑張りたいと思っております。本日は、貴重な時間をいただきありがとうございます。どうぞよろしく申し上げます。

### (4) 出席委員紹介

- ・欠席委員の案内：小出委員・重村委員・那須委員
- ・出席議員の紹介
- ・議事録署名者指名：伊藤委員・坂口委員

(5) 審議：議題1 平成24年度実施事業報告

議長（清重会長）：それでは早速、議題に移りたいと思います。儀礼的な会議ではなく、内容のある会議にしていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。それでは、スライドをお願いします。

・・・・・・・・・・＜スライドによる終了事業の報告＞・・・・・・・・・・

**【今年度7月以降に実施した事業報告】**

**〈指定事業〉**

- ・女性に対する暴力防止講座①「見知らぬ人への対応を子どもに伝える親子セミナー」
- ・キャリアアップ講座第1回目在宅ワーク「テープ起こしのスキルを身につけよう！」
- ・コミュニケーションスキルアップ講座「笑いヨガ講座」
- ・資格取得講座第①「宅建試験の直前対策講座」
- ・ワークライフバランスに関する講座（出前講座）「仕事も家庭もどちらも大事 私たちが目指す生き方、働き方とは」
- ・夏休みアート講座「親子で表現、自分の気持ち」
- ・男女共同参画に関する講座第2回目「人生は誰のもの 今日気づきが未来への一歩」（共催）
- ・資格取得講座②「簿記3級対策講座」
- ・再就職に関する講座「はあもにい再就職準備講座」
- ・父と子の料理教室「パパと一緒に《でこまき》に挑戦」
- ・女性に対する暴力防止講座として「DV教育プログラム・男性編」
- ・資格取得講座③「中国語検定準4級対策講座」
- ・市民文化の振興及び交流「わたしのギャラリー」
  - ①「夏休みのアート講座」②10月23日～11月13日③11月30日～12月19日
- ・起業家支援講座「私流しあわせ起業術」
- ・コミュニケーションスキルアップの講座②「プラス思考のコミュニケーション力」
- ・市民グループ企画①「みんなで考える介護」
- ・資格取得講座④「秘書検定2級対策講座」
- ・資格取得講座⑤「医療事務資格取得の対策講座」

**〈自主事業〉**

- ・「よんでよんでの会」親子の読み聞かせ会
- ・「クマモト・ウーマン」ラジオ番組提供

・フェアトレード講演会「ボリビアから大人気チョコレート生産者がやってきた！」

### 〈はあもにいフェスタ〉

今年は「輝けわたし！かがやけ熊本！子どもにつなぐ豊かな未来」と題して開催しました。2日間で延べ1,928名の参加があり、17日は、1階のエントランスロビーではバザー・生け花の展示など、ホールでは、栄養と食事に関する講演会、各部屋ではエコな暮らしの講演会、子どもとの話し方講座などが行われました。さまざまな市民団体が常日頃の活動の成果を発表する場であり、またバザーなどで活動資金を得る場にもなっています。

また、14時から16時までメインホールでは記念講演会を開催しました。オープニングは必由館高等学校の和太鼓部の演奏。その後にくまモンとの交流。最後にピーター・フランクルさんの講演会を実施しました。

その後、食のアトリエで、今回の参加団体の方との交流会、「オープニング・パーティー」を実施しました。ピーター・フランクルさんも出席いただきまして、気さくに皆さんとお話をしていただけました。

18日はヒップホップのダンス、コラージュというような手法で自分の夢地図を描くワークショップ、整理収納に関する講座、デートDVの防止に関するセミナーや東日本から熊本に移住した親子を対象にした料理教室などが開催されました。1階ロビーでは、有機栽培野菜の販売や子どもによる販売の体験、点字の体験が行われました。2日目のメインホールの催事は、熊本市の文化事業協会様の主催で映画鑑賞会「ものすごくうるさくてありえないほど近い」を上映しました。

ホールの入場者は、ピーター・フランクルさんの講演会が250名、映画が120名ほどでした。今回の参加団体は、男女共生推進室も含めまして全部で31団体となっております。皆さん本当にそれぞれユニークな講演会やワークショップなどを実施していただきました。

**司会（清重会長）：**反後さん、どうもありがとうございました。映像を通して本当によく分かりました。バラエティに富んだ事業内容で頻度も多いですね。20回にわたる連続講座なども、大変なエネルギーが必要だと感じました。

おおかた大成功という様子ですが、皆さん、質問などございませんか。

**反後：**補足させていただきますと、運営審議会の資料に6ページ以降、詳しい講座の講師や参加人数などを記載しております。また、10ページからは、アンケートの結果を掲載しております。講座に参加した回数は、初めての方が圧倒的に多く76.9%となっております。講座を受講した理由は「興味関心があったこと」と「自己向上のため」というのがかなりを占めております。講座に参加した方の性別は女性が70%、やはり女性の方が多くご利用いただいております。

**司会（清重会長）：**ありがとうございます。

まず、私の方から聞きたいのはコストの件です。受講料や経費など財政の面ですね。ずいぶんいろんな講師を招いたりしていますね。それと受講者の募集法です。結構リクルートに成功していると思いますけれども、中には大変苦勞していることもあるように聞きました。これは基本的にどういう方法でリクルートしていらっしゃるか。その2点、簡単に結構ですのでお願いします。

**反後：**まず募集方法につきましては、市政だよりがやはり全戸配布ということなので一番効果的かと思ひまして、市政だよりをおさえさせていただいております。それにどうしても載せられない場合には別の方法で広報、例えばフリーペーパーですとか各社メディアに対するプレスリリースを出すなどして広報させていただいております。

財政部分は、講座ごとの説明が必要でしょうか？

**司会（清重会長）：**各講座で収支ばらつきがあると思いますが、大局的には大丈夫なのでしょうか？

**反後：**受講料の収入と予算で大丈夫なようにさせていただいております。

**司会（清重会長）：**わかりました。やりくり上手な反後さんに期待しています。行列ができるような講座もありますね。私なんか「ええ、こんなことやってるのか」なんて驚いていますが、市政だよりなどを読んでいる人たちがいるんでしょうね。

**反後：**特に育児中の方に人気だったテープ起こしの講座や医療事務、調剤薬局事務は、本当にあつという間でした。調剤事務は15分で定員に達するぐらいですので、特に育児中で家庭にいらっしゃる方は、しっかり市政だよりなどをご覧になっていただいているのかなと思います。

**司会（清重会長）：**市民のニーズを掘り起こすというか、見極めてヒットさせているというのはたいしたものだと思いますね。八幡先生、いかがですか？

**八幡委員：**「はあもにいフェスタ」には土曜日の夕方から参加させていただきました。私は、他の市でも男女共同参画の審議会の委員をさせていただいたことがあるんですが、熊本市の場合、多くの団体が男女共同参画や関連した活動を、このはあもにいを拠点にして活動されています。そして、それぞれの活動のネットワークキングというか、これらの活動を大事にして、これからはあもにいの活動の活性化というのを図ろうとされているんだろうなというようなことがとても分かりました。これは藤井館長のお考えの部分もあるのですが、熊本市の独自の部分だと思いました。

多くの団体が一斉にフェスタという形で集えるというのは熊本市の特色かなと思っていたところですが。このあたりを活かした人材バンクではないですけど、こういう団体を組織化する拠点としての、“はあもにい”の役割というようなことについて、今後どういうふうにお考えなのかということをお伺いしたいのと、やはり今後フェスタが活性化していくと、駐車場などの問題、交通面での問題はどうか？ 私は車で来て何の問題もなく無料駐車場に駐車できたのですが、千数百名の方たちが集まられたということは、公共の交通機関利用を推進されていたようではありますが、

混乱はなかったのか、そのあたりお伺いしたいのですが。

**司会（清重会長）：**いかがでしょうか。

**館長（藤井）：**今回フェスタでご協力を頂いた参加団体の皆さま方とのネットワークについては、最初は私ども自身がそれぞれの団体の活動をよくわからなかったので、まずは知るということに力を入れていきました。そして、団体同士ももっと知り合っていただきたいと思い、今年はお互いが知り合う機会を、というふうに捉えていきました。その中で、はあもにいフェスタを準備する中からそれぞれの団体の皆さま方が、本当に長らくその活動を続けてこられたこと、活動内容についても全てというわけではないですが、「知る」ことができました。次年度は、そういった方々の力をお借りして、いろんな講座を運営していきたいと思えます。その中で、講師や企画運営などのご協力をいただきたいと思います。そして最終的には、私ども独自の人材バンクのようなどころまで持っていくことができれば理想的ですので、それを目標にしたいと思えます。今はそれぞれの団体が単体で自分達の活動の発表の場としてとらえていらっしゃると思いますが、同じ分野の活動を展開する団体等もありますし、違う団体がコラボすることによって新たな取り組みも生まれるのではないかと考えますので、そういう仕掛けを積極的に行っていきたいと考えております。

駐車場に関しましては、スタート当初から頭を悩ませてきたことでもございます。近隣の店にも大変迷惑をかけながらどうしたら回避できるかということについて、ずいぶん時間も力も要したという状況であります。はあもにいフェスタに関しては大きな混乱はなかったと聞いております。また臨時駐車場を新たに借りましたので、今のところは何とかやれている状況です。しかし、夜間、特に冬場や雨の多い時期は、第1駐車場からは距離があり、収容人数が多いイベントが重なると、お子さん連れや高齢者の方々にはご迷惑をおかけしていると危惧される場所ですので、情報収集をしながら、現状は上手く回すということに努めております。さらに、事故を避けるためにも駐車場の人員を秋から一人増やし、管理運営に取り組んでいるところです。

**司会（清重氏）：**八幡先生ありがとうございました。それでは、中山先生どうぞ。

**中山委員：**中山でございます。今、はあもにいフェスタの件が八幡先生の方から出ていましたけれども、フェスタの10日ぐらい後に反省会をいたしました。この反省会には、出展しました代表者が集った反省会でもございましたが、一番に話したのが指定管理者になって初めてのフェスタでしたけれども、よくぞここまでできたということで、皆さんびっくりして、担当者の方にも大きな拍手を送ったところがございます。反後さんも大変喜んで感動してちょっと目を潤ませておられましたけれども、この涙の中には相当の苦労があったと思っています。来年は、また良いものができるんじゃないかと思えます。また、駐車場ですね…。これは以前からですけどもちょっと遠いものですから、皆さんなるべくとめたくないとおっしゃるんですね。審議委員の皆さんどうぞ駐車場の件をよろしくご検討いただけたら、はあもにいも助かるのではな

いかなと思います。

それから、資料を拝見させていただきました。はあもにいフェスタの済んだ後にこれだけの分析をよくなさいましたね。これだけのことがよくできたなと思って感心して読ませていただきました。

**司会（清重会長）：**中山先生どうもありがとうございます。それでは他はよろしゅうございますか。どうぞ。

**飯村委員：**熊日の飯村です。1点だけ。非常に重い今日的な課題にも積極的に取り組んでいらっしゃるなと思って見ていたのですが、特に10月のDV教育プログラムに興味があります。4名という参加者、これが多いか少ないかはちょっとわかりませんが、どうやって募集されて、また今も実施中ということですのでけれども、今後どういう形で展開しようと考えていらっしゃるのか、お伺いしたいです。

**反後：**DV講座は、熊本DVの研究会の“り・まっぷ”が主催で、申込の方法はメールのみです。メールアドレスのみ書いたチラシを各所に配布致しました。医療機関などにも配布しましたので、講座開始後も問い合わせがあります。現在も長崎の方からも問い合わせがあっているようです。メールで問い合わせや申込みがあった方に対してメールで返答をし、最終的にはこちらの会館に来ていただいています。

内容が認知療法を加害者プログラムに応用するというもので、非常に注目されるべき方法だと思っております。今後のことにつきましては、講座終了後に主催された“り・まっぷ”とも話しまして、検討させていただきたいと思っております。

**司会（清重会長）：**飯村さんよろしいでしょうか。私からも質問ですけれども、参加者4名、DV加害者を対象にしたそうですが、この4名はDV経験者ですか。

**反後：**はい。実際の加害者です。そのため当館でも講座がある日には、講座名や部屋は明記しないようにするなど極力いらっしゃる方に負担をかけないような形で来ていただいています。ご自身が変わりたいという思いで参加されているので、非常に熱心に、積極的に参加をされております。

**司会（清重会長）：**ありがとうございました。治療的な性格を持ったプログラム、随分、踏み込んだところですね。ありがとうございました。他にどうでしょうか。議題の2に移ってよろしゅうございますか。では資料の27.28ページ以降をお開きください。

**反後：**平成25年度の事業案の方に移らせていただきたいと思います。

まず、平成24年度を振り返って、先程藤井館長の話にもありましたけれども、今年度は、指定事業を内容と回数共に確実に実施し、一人でも多くの市民の方々に足を運んでもらうことを通して男女共同参画啓発の機会を増やすということを第一に目指しました。そのために講師選定や内容についても、前年度の講師の方を引き続きお願いしたところも一部ございます。

広い対象者を想定した分かりやすい講座、参加しやすい講座を設定したものがあります。資格の取得講座は20回など長期間にわたるものもありますが、講師との連携を

密にして受講生をフォローしております。男女共同参画やDV防止に取り組むそれぞれの市民団体との共催事業や女性起業家グループとの連携なども行い、大学等への出前講座なども実施しました。自主事業は、先程紹介させていただきました「よんでよんでの会」、5月の「こんにちは！はあもにいです」では、はあもにい自体を紹介するようなイベントを実施して、近隣地域の方々にご来館いただく機会をつくりました。中には、募集に苦労する講座もありましたし、他の施設との差別化が図れていない講座もありましたので、そこは反省点として、今後解消していきたいと考えております。その他、男女共同参画啓発講座につきましては、前半に共催事業や出前講座を実施し、当館の主催講座が2月実施になってしまったことから、男女共同参画啓発への取り組みの薄さということを印象づけてしまったので、25年度につきましては解消していきたいと考えております。

#### (6) 審議：議題2 平成25年度事業案

**反後：**まず、重点項目として男女共同参画への理解、周知を広げる、啓発学習の充実ということで、対象者を想定した内容の講座を設定いたします。

男女共同参画週間や、はあもにいフェスタ、ミモザの日（3月8日）など多数の来館者が見込めるイベント時には、男女共同参画啓発に直結した内容の講演会を実施していきたいと考えております。大学や高校、企業などへは積極的に出前講座、主にはワークライフバランスに関する講座を実施し、はあもにいへの来館につなげていきたいと考えております。

さらに、全講座の初回に男女共同参画社会についての説明を行い、啓発を促すステッカーやフライヤーを作成して配布したいと考えております。

次いで、小中学生を対象に、はあもにい探検・見学を受け入れて館内を見学しながら、男女共同参画に触れるプログラム開発に取り組みたいと考えております。そして、中高大学生のインターンシップを積極的に受け入れ、はあもにいの職場体験を通して男女共同参画社会について考え、学ぶ機会を用意するということ。今年度のインターンシップ受け入れはナイストライで清水中学校、もう1つは尚絅大学の2校でした。

2番目として、はあもにいを拠点とする団体グループ関係各所との連携を促進していきたいと考えております。指定講座の講師や運営を一部依頼して、団体の活動の場を増やすと共に、講座の内容の充実を図りたいと考えております。

また、保健センターや大学などの連携による自主講座を実施する。指定講座の講師をホームページで紹介し、はあもにい講師陣の人材ネットワークを構築していきます。

3番目には、審議会や責任ある立場で活躍できる人材の育成、「はあもにい女性大学」を開講します。これは全部で10回ほどの講座を通して、意思決定の場において指導的な地位に立つ女性人材の発掘育成を目指すものです。

4番目として、キャリアアップ就業につながる講座・プログラムの開発です。これは7種類の資格取得講座、再就職支援講座、起業家支援講座、キャリアアップ講座などキャリア支援関係の講座について、初回にキャリアプラン作成を取り入れて、目標を明らかにしたうえでスタートさせる。モチベーションを維持しながら可能なかぎり脱落者を出さない工夫をしていく。また講座と並行してキャリア相談を実施し確実にキャリアアップや就業につながる講座、プログラムの開発実施に取り組みたいと考えております。

5番目は、テレワーク推進講座や、IT活用講座への積極的な取り組みです。館内に20台のパソコンを新たに設置しまして、テレワーク推進講座やIT活用講座などを行います。企業や大学との連携を図りながら、テレワークやIT活用によって期待されるワークライフバランスの実現や雇用拡大の可能性を探ります。

6番目に、より有効な情報発信、啓発活動への取り組みとして、ホームページやはあもにい通信、ラジオ番組、クマモト・ウーマン、ノベルティ配布などさまざまなチャンネルを活用しながら、確実に市民に届く、受け止めてもらえる情報発信に取り組みたいと考えております。

以上の方向性をもちまして、事業を企画しているところでございます。

**司会（清重会長）：**どうもありがとうございました。ご理解いただいたでしょうか。実際、具体的なプログラムを29ページ以降、特にこの中でここは目玉だとか新しいものだというのがあれば館長の方からご紹介いただきたいと思います。例えば、はあもにい女性大学とありますよね。これこそ、館長に続くような女性をどんどん輩出するという試みでしょうか。

**館長（藤井）：**これは、私どもがこちらに来ましていろんな会議、よその県の館長会議に出席しましたところ、審議会等などで活躍する女性の育成に力を入れているという話を聞き、はあもにいでも取り組む大きな課題ではないかと思いました。具体的な内容を決め込んでいるわけではないのですが、今年はその準備に取り組み、可能であれば後半にでも実施したいと思い、情報収集をしているところでございます。

実は私も育児サークルの代表者をやっていたところを、ある会議に参加させていただいて、それがここにつながったという経験もありますので、後に続く人たちを支援する取り組みは重要だと思っております。

この件については、本日、皆さまのご意見を承りたいところでございます。たとえば福岡では、「ふくおか女性いきいき塾」という10回講座。これは審議会等で活躍する女性と特定はしていないのですが、課題研究等を行っていく取り組みをされています。また、私が参考にしたいと思った青森では「ウイメンズアカデミー」という名称で、15名を対象に、地方公共団体の審議会委員や自治会役員、活動グループリーダーとして活躍したいと考えている人を対象に、男女共同参画の基本から青森県の施策、男女共同参画の分析、プレゼンテーション、文書作成の力をつけるなど、県外研修等も入れ

た講座内容で実施されております。

熊本では、青森のプログラムを参考にしながら、県のリーダー研修と重ならないような形の講座を約10回程度で実施してみたいと思っております。

**司会（清重会長）：**ありがとうございました。議論の発端をと思ってちょっと向けてみたんですけど。館長の熱い思いが伝わってきたと思います。他にどうでしょう。どうぞ。はい。お願いします。

**原委員：**新しい25年度の開催講座の方向性ということで、若い世代から、それから幅広く事業計画をなさってるなということを思いました。はあもに女性大学講座もやはりプレゼンテーションや、自分自身の自己表現をする講座もきちっと組み込まれていかれるかと思っておりますが、ここで受けた人たちが受けただけというのではなくて、人材バンクをつくり、各種審議会や委員会等への推薦ができるという形にまでつなげていけたらよいのではと思います。

その場合には市の男女共生推進室に、行政の各課から問い合わせもくるかと思っておりますので、連携をきちっと取るようにしていただきたいということが一点です。

それと、今年度の事業の中にもあったキャリアアップ、就業につながる講座プログラムの開発ということについては、非常にタイトルも柔らかく、そして親しみやすいと思います。ただこれを受けた方たちが本当に就業につながったかどうかというところまでの追跡調査をしていただきたいと思っておりますし、その中で自己実現していらっしゃる方たちについては、特にラジオ番組の「クマモト・ウーマン」にご紹介したりとか、ここでやったことをネットワークとして広げていくことによって、さらに関心を持たれるような仕掛けをつくっていただくと良いなと思えました。

それと、先ほどDV関係でお話があったのですが、もう一つこの会館の大きな事業の中に相談業務があるかと思っております。ただ、この相談業務は指定管理者の事業ではなくて行政直営の事業だったと思っております。この相談内容が男女共同参画の妨げになっているようなものを講座として組み入れるという、連携プレーというのにも必要になってくると思っております。

ホームページの方では紹介もしてあったのですが、そこは男女共生推進室の方ときちっと連携を取りながら、問題解決につながるようなことであれば、講座として、また啓発事業として実施していただければ大変効果があるのではないかと思えました。そこが私の気付いた点です。

**司会（清重会長）：**館長、どうぞ。

**館長（藤井）：**相談室との連携についてですが、やはり市民の方々の思いや、困っていらっしゃる方が集まる場所だと、私たちも思っております。相談員の方々に直接お話をお聞きして、来年度の事業にも組み込んでおります。コミュニケーションスキルアップの講座の中に1つ、それと、ここには示せてはいないのですが、子育て中のお母さま方の相談の中から、それを克服するのに役に立つであろうと思われるような内容を、

もう1つ、自主講座として持ってきていたいと思っております。これらの講座は相談員の先生方を講師にお願いしたいと考えているところです。

例えば、先ほど保健センターとの連携とありましたけれども、実は3才児健診などで虐待が懸念される方々に関しては、保健センターの方で声を掛け、その後そのフォローアップをするような集まりがあるそうです。ただし、それは半年か1年と期間が決まっているので、その後に、そういった方々が気軽に行けるところがない、という声を相談員の方からいただきました。そこを、はあもにいで不定期に、子育ての悩みを気軽に話しながら、ファシリテーターが少しフォローをしていくような機会を設けられないか、保健センターや相談員の先生方と一緒に作り上げていきたいと思っているところです。

**司会（清重会長）：**ありがとうございます。他にいかがでしょうか？ 濱本さん。

**濱本委員：**フミダスの濱本です。多種多様なさまざまな取り組みを、短期間でぐっと詰めていच्छやるのはすばらしいなと思いました。

おそらくこの全ての動きがつながっているのだと思うんですが、24年度の事業もそうですが、25年度の事業の中で、はあもにいとしてやれたやれなかったというその実感できるものという部分での、例えば数値目標だったり、機会提供の目標、人材輩出目標などがあればお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。

**司会（清重会長）：**いかがですか。館長。

**館長（藤井）：**今年度は、熊本市からの指定事業の数がかなりありますので、それを確実に実施するというので、数値目標を掲げることはできませんでした。来年度に関しても、まずは指定講座、内容等をしっかり深めていくということと、十分な方々に参加していただくということがまず基本的な私どもの目標になるかと思えます。

今年度から考えております女性大学など人材育成に関しては、ある程度の数値目標を掲げて取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

**司会（清重会長）：**坂口さん。いかがですか。

**坂口委員：**私も子育てサークルを中心に始めて藤井館長の後をついていかせていただいているようなところがあるのですが……。思ったのは、初めての来館者の方が多い。周りの声でもはあもにいが変わったというのはちらほら聞くようになったので、それは来館しやすい広報、講座タイトル、チラシの書き方など、伝えやすさを工夫されているなというのを実感しています。

保健センターとの共同という意味で先程虐待の件がありましたが、私の周りでは発達障害のお子さんの問題があります。重度の場合もありますが軽度のお子さんは、ちょっとしたサポートや場所があることで随分解決することがありますので、その部分にも少し目を向けていただけたらと思っております。

はあもにいとはとても集まりやすい場所ですし、以前に比べたら駐車場の問題がまだあるにしろ、子ども連れでも通いやすいので、発達障害のお子さんたちにもとてもいい

など思っています。それに続いて、はあもにいの探検隊という部分もこういう建物を利用して子どもたちができるものというのは、健常者も発達障害系のお子さんも関係なく参加できると思うので、一緒に何かできるのではないかなと思っています。よろしくお願い致します。

**司会（清重会長）：**ありがとうございました。はい。伊藤さん。

**伊藤委員：**地域密着ということで「熊本市男女共同参画センター」という名前が付きまして、地域としてはこの会館名が変更になる前は「総合女性センター」だったんですよ。総合女性センターでしたら女性しか行かないのではないかなというふうなあつれきもあったけども、いい名前を付けていただいたと思っています。

一つ広報の問題ですが、非常に多彩な講演とか講習をされていることについては、広報がいきわたっているという感じはしています。私がこの地域におりまして、チラシなど案内を、まわらせてもらっていますけど、館長さん、なんかこの地域からのいろいろの問い合わせとか少しは、あっていますか？

**司会（清重会長）：**いかがです？

**反後：**直接、どこの誰々ですというようことは聞いておりませんので特定はできませんが、やはり地元の方がいらっしゃっているなというのは、はあもにいフェスタの時なども感じておりました。

**伊藤委員：**そういう面で少しでもお助けができればいいなということは思っております。それと朝市の問題ですよ。朝市をされるということは、地域の人たちは1回2回とあればそれ相当にいろいろ期待してくると思うんですよ。

地域密着という点においては朝市をされるということは非常に重要なことじゃないかと思うんですよ。副館長、この点についてはいかがですか？

**司会（清重会長）：**きました。どうぞ。

**副館長（加島）：**はい。市の方にはお願いしているところでございます。いろいろありまして、敷地内は難しいのかもしれないので、再度検討しております。

また、この隣に公園がありますけども、こちらのお祭りが今年8月予定されていたのができませんでした。というのはこの祭りを主催する若者がいなかったということだったので、隣のサンライフさんと私どもと協力してサポートはできるけれども、やはり手を挙げて主催する者がいないのことでした。そこで8月以降近郊の方たちと夜なべ談議もやりまして、「じゃあ町をみんなで元気にしていこうじゃないか」と手を挙げていただいた方が数名見つかりました。

その中で、この公園を使って朝市ができないのかとか、近郊にホリデイさんというスポーツジムがございまして、金曜日の休館日を絡めながらできないのかと、いろんなご意見をいただいているところでございます。

確かに熊本市内の中でも1番目か2番目に高齢化が進んでいる地域だということも伺っておりますし、道も非常に狭いところでございますので、その中で歩いて来られ

るお年寄りを対象に、ボランティアのメンバーも含めたところで協力してやっていければと思っております。

**司会（清重会長）：**ありがとうございました。副館長としては格別の思い入れがあるようですね。

**伊藤委員：**副館長、よろしくお願いします。やはりどうしてもその地域を引き付けていくということであれば、物品販売も大事ですけども、手作りのものを出すのも人気です。今まで校区でバザーをやっていたけども、赤飯や餅はお年寄りには特に人気がありますね。今は家庭で餅を作るなんてことはないですからね。そういう企画を1つ考えてみて下さい。お願いします。

**副館長（加島）：**よく町おこしに関しましては、「若者」「よそ者」「ばか者」この三つがいるというようなことですので、私もばか者になりまして、また若者がこの地区あんまりいないかなと思ったんですけど、考えてみたら大学生など多くいらっしゃいますので、先日清重先生のところにおしかけてまして学生の方をちょっと協力をお願いしたところでございます。

**司会（清重会長）：**若者っていうのはルーテルの学生のこらしいですね。わかりました。協力します。伊藤さん、キーアイテムは餅と赤飯ですか？

**伊藤委員：**そうです。餅と赤飯ですね。

**司会（清重会長）：**なつかしいですね。高齢者の一人として本当にサポートしたいです。

**司会（清重会長）：**どうでしょう。残り時間も少なくなっただけですけども。八幡先生、ずっと皆さんの議論聞いて何かコメントがありますか？

**八幡委員：**私も先程の「はあもにい女性大学」を今後どのように運営されるのかというところを、非常に大きな関心を持って見せていただいたところです。私たちでも男女共同参画に関する啓発、教育を受ける機会としては、例えば埼玉県にある国立女性会館が行う事業に出かけて行って教育を受けて、その実践を行うというプログラムがあります。多分熊本県もそうした事業があって、今度は市でやるというときに、どういうターゲットに、どういう育成を目指しているかという部分に、特色が出せればいいのではないかなと思っています。

例えば、私は子どもの小学校のPTA活動でいろいろなお母さま方と接する機会が多く、仕事をしていないお母さま方でも、人材の宝庫だなと感じています。子育てが終わった後に、そうした方たちが今度は地域を支える人材に育っていかれると思うのですが、例えば認知症対策の地域見守り事業など非常に重要な役割を果たしていかれたり、将来の民生委員さんのような立場に育っていかれたり、女性の育ち方も地域の中でそれぞれあるのだらうと思いつながりながら関わらせていただいています。この女性大学がどのようなリーダーを育てるのか、ターゲット設定に非常に興味を持っているところです。あとは大学との連携というところでは、私も非常に動きの悪い熊本大学という組織にありますので、どのような協力ができるか、問題意識を持って見せていただいたと

ころです。

**司会（清重会長）：**ありがとうございます。期待通りの貴重なご意見。館長それに対してレスポンスがありましたらどうぞ。

**館長（藤井）：**はい。貴重なご意見ありがとうございます。

女性大学の具体的な内容については、これから企画グループを作ってその中で考えていきたいと思っておりますので、先生にもご相談に行かせていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

それと、大学との連携に関しましては、若い世代の方々にこの会館を利用していただきたい。そして若いうちにそういった男女共同参画について触れていただきたいということから、インターンシップを積極的に取り入れていくということを考えています。また、自主事業をする際に、企画の段階でボランティアとして参加してくださるような学生さんを募集していきたいと思っております。若い視点で参加してもらうことで、私どもの講座内容についても刺激になりますし、若い方々がどのように男女共同参画についてとらえるかということについても、とても関心がありますので、そこは先生方ともまた相談をしながら進めさせていただきたいなというふうに思っています。

1つ、テレワークというようなことで私ども、今年度考えている部分がございます。32 ページに、テレワーク推進 IT 活用講座というのがございますが、ここは大いに学生さんに参加していただきたいというふうに考えています。企画書を、まだきちんと落とし込めてはいませんが、現段階で少し私どもが考えているテレワーク推進事業というのを企画にまとめておりますので、少しご紹介をさせていただきます。

私たちがこのテレワークに取り組みたいというふうに考えましたのは、テレワークがワークライフバランスにつながっていくだろうというところが大きな理由になります。それと、ワークライフバランスが実現されることによって、いろんな社会的な問題も解決していくんじゃないかというところから、テレワーク推進を今年度の事業に掲げております。続けて解説します。

**〈スライドにて説明〉**テレワークの効果として、企業にもたらす効果、働く人にもたらす効果がそれぞれ考えられます。企業にもたらす効果としては、男女共同参画の視点、ワークライフバランスの視点からすると、人材確保やコスト削減などが挙げられます。一方、働く人にもたらす効果としては雇用の継続、子育てとの両立、介護との両立、自分自身の向上などが挙げられると言われております。

はあもにいのテレワークの推進計画については、テレワークというのは一体どんなものか、ということに答える場所であることです。テレワークを導入したい、テレワークをしたいということに答える場所でありたいということでこちらに掲げてあります、テレワークについての講演会やセミナーを開催したり、テレワークを体験実践できる「コ・ワークステーション」を設置したいと思っております。「コ・ワークステーション」

とは、協力協働できるワークステーションという意味ですが、こういったものを体験できる場所を作る。もちろん職員がテレワークを実践して広めていくことに取り組んでいきたいと考えているところです。

事業のコンセプトとしては、熊本市におけるテレワークモデル拠点というのを挙げております。はもにいのテレワークの推進事業は、①テレワークの講演会やセミナー、啓発事業によって、テレワークへの理解を深め、ワークライフバランス実現に向けての取り組みを促進する。②テレワーク導入の土壌を作る。③モデル事業としてコ・ワークステーションを開設し、テレワークの実践体験を通してワークライフバランスの充実を実感することを3段階で進めていきます。

続いて、相談事業の部分での効果は、テレワーク導入を希望する企業の導入をスムーズに行うことです。実践事業の効果としては、はもにいスタッフがテレワークを導入することで周囲に対して導入事例として示すことができるのではないかなどということの効果として考えております。テレワークについての実施フローはまだ未確定の部分が多いのですが、次年度からそれぞれの事業を展開できるよう取り組んでいきたいと考えているところです。

**館長（藤井）：**途中からこういう紹介をしてしまいましたけれども、特にコ・ワークステーションについては、森都心プラザにある新規事業の「創業支援室」のような個室ではなく、オープンなスペースを考えています。テレワークで仕事をしたいという方や、インターネットを使ってフリーランスで仕事をしたいという人たちが、自由に仕事ができる場所をこの会館の中のどこかに設けて、そういった方々が一同に集うことによる相乗効果を求めています。例えばデザイナーとかプランナーなど異なった職業の方が1つのテーブルを囲んで仕事し、学生も来て、そこに農業団体から「実はトマトを売り出したいんだけどパッケージを考えてもらえないか」という相談がくる。その場所で、たとえばシールのデザインと考えてあげるとか、新しい流通のアイデアが出てくるなど、そんなスペースを用意したいという希望を持っております。これはまだまだ新しい取り組みではありますが、かなり注目されてその結果生み出された新たな事業というのがだいぶ評価をされているようですので、準備を少しずつ進めていきたいと考えています。この新しい取り組みのところにも学生を巻き込みたいと思っております。

**司会（清重会長）：**ありがとうございます。ご説明よく分かりました。

それにしても、だんだん老人には苦しい時代となりました。テレワーク、ライフワークバランス、モチベーション、スタッフ、コース、フリーランス、デザイナー、プランナー、スペース…。頑張っって追いついていきますので。これについて何かコメントやらご意見ありますか？はい、坂口さんどうぞ。

**坂口委員：**私よりも若いお母さま方、30代のお母さま方でキャリアがあつて子育てをする方は、一旦仕事を辞められる方が多くて、デザイナーの方や技術をお持ちだけ

ども子どもとも関わりたい、という方が多い中で、この仕組みはとてもいいなと思っています。実際この仕組みをやっていきたい個人の方もいらっしゃる、応援したいと思っていましたので、この考え方で子どもも地域も仕事も家庭もという欲張った女性が増えていくといいなと思っていますので、ぜひ頑張ってください。

**伊藤委員：**今のそのことについて、行政の方ではどう考えられていますか？

**川上氏：**熊本市の川上でございます。今日は室長が出席する予定でございましたけれどもお休みをいただいておりますので、私が参りました。今日ご質問がありましたことについては、議事録等をお借りしまして、分析をし、はあもにいの方と調整をしながら皆さんのご意見を次年度に向けて反映したいと思っております。

モニタリングについても毎月定例会を行いまして、随時情報や要求を相互に提供しているところがございますので、現場の声は十分にこちらに入っているというふうに理解しております。

**司会（清重会長）：**ありがとうございます。それではいかがでしょうか？他に何かこの際せつかく、はい。

**原委員：**はあもにい女性大学に戻りますけれども、先ほど館長の方からだいたいこれを実施すれば後半にとおっしゃったと思うんですが、後半と申しますと秋ごろということでしょうか？

**館長（藤井）：**そうですね。準備をこれからしていかなければならないので、秋開講ということができれば一番いいなと思っております。

**原氏：**ありがとうございます。

**司会（清重会長）：**他にいかがでしょうか。どうぞ。

**飯村氏：**来年度の新規事業というか目玉は今お聞きした「はあもにい女性大学」とか「テレワーク」の部分だと思うんですけど、他には何かありますか。

**司会（清重会長）：**この際、熊日に売り込むチャンスですから、反後さん。

**反後：**はい。新規事業に関しましては、来年度ソーシャルビジネスに関する講座を設けてみようと考えております。また資格取得講座の中では「コールセンター業務資格取得講座」を実施しようと思っております。これは電話での業務資格で、資格を取ることで大規模なコールセンターが多い熊本では大変有効だと考えています。

キャリアアップに関する講座では「始めてみよう！フェイスブック講座」などを設けようと思っております。コミュニケーションスキルアップに関する講座では、コーチングに関する講座と、相談室との連携事業になるかと思っておりますが、色を使って自己認識とコミュニケーションの改善を図る講座を行います。

また、今年度実施する「ソフリエ講座」に続くカジダン講座として、男性のための料理教室を実施しようと思っております。

また、はあもにい探検隊や、男女共同参画に関する標語募集も、今までになかった取り組みだと思っております。あと幅広く人気がある寄席を事業で行いたいと思っております。

その際には、福祉タクシーとも連携をとりまして、普段会館に足を運べない方にも気軽に来ていただけるような機会を提供したいと思っております。

**司会（清重会長）：**飯村さん、取材十分でしょうか？

**飯村委員：**はい。確実に市民に届くように事前にお知らせください。

**司会（清重会長）：**ありがとうございました。非常に意欲的に報告してくださってうれしいです。いかがでしょうか？ 時間もせまってまいりました。皆様のご意見出尽くしましたでしょうか。では、進行を司会にお返ししたいと思います。どうも皆様ご協力ありがとうございました。

**進行（山田）：**清重先生、審議の進行ありがとうございました。

審議委員の皆さまもたくさんの貴重なご意見ありがとうございました。これらの意見をしっかり踏まえながら平成 25 年度の事業計画を具体化していきます。では閉会のあいさつを、はあもにい副館長の加島より申し上げます。

**副館長（加島）：**本当に長い時間ご審議いただきましてありがとうございました。まだまだ手探りの部分でできてない部分もあるかもしれませんが、これを基にしまして、来年度また頑張っていきたいと思っております。

私どもとしては、環境整備の部分、駐車場も臨時駐車場をお借りすることができましたし、告知関係も頑張っているのではないかとと思っております。フェイスブックもやっています、この会館らしさの部分も出てきておりますが、これをもっと充実させていきたいですし、近郊のご迷惑を掛けているお店等々に対しては、近くのお店紹介みたいな感じで紹介するなど、つきあっていければと思っております。

またバスの便利がいいと言われながら、前の国道に停まるバスが意外と少ないものですから、このあたりも今から時間をかけましてお願いに行ってみたいと思っております。少しずつでございますけども、事業内容も、また環境もさらに整備していきたいと思っております。皆さま方のバックアップがあってこそこのことでございますので、いろんなご声援、それからご叱咤、激励いただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。長時間大変ありがとうございました。

**司会（清重会長）：**お働きを評価して審議会として拍手で終わらしましょう。どうもありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。